

## 前年度までの調査内容および知見

### 1) 種苗生産

- ・初期餌料にタイ国産ワムシを使うことによって、より安定した初期飼育が可能となった。

### 2) 中間育成

- ・天然での着定サイズである、尾叉長18mmが沖だしサイズとして適当である。

### 3) 漁業実態

- ・市場体長測定による漁場別漁獲量、体長組成資料を蓄積した。放流海域のハマフエフキの漁獲量は名護漁協水揚げ分で年間6～7トン、国頭漁協水揚げ分で2～3トン前後で推移している。この海域のハマフエフキの漁獲量は両市場を通過しない分を含めても10トン程度と推測される。
- ・放流海域のハマフエフキ漁業の特徴として、漁獲物の大半が刺網、延縄によって漁獲された1歳～3歳の若齢魚で占めていることがあげられる。
- ・各年級群の1歳魚期の漁獲尾数には年変動が認められる。1984年～1992年の各年級群では最高と最低で3倍程度の変動が認められる。しかし1990年～1992年の各年級群は高いレベルで推移してきている。

### 4) 天然魚の生態

- ・平成3年度までで天然魚の生態調査は終了し、以後新しい知見は蓄積されていない。
- ・着定量は年変動が大きく10倍以上の幅で変動が認められる。着定後の生残にもある程度年変動が認められる。

### 5) 放流

- ・100mmサイズの種苗を放流する場合には腹鰭抜去標識が最も良い標識である。
- ・放流魚は放流直後（5日後）でも天然の餌料を摂餌しており、摂餌面での天然環境への適応は早い。
- ・放流場所は天然魚の放流サイズの分布域よりは生物組成の単調な泥地の深み、漁港内等の方が放流直後の減耗を少なくすることができてより良い。しかしそれでも放流直後の減耗は放流効果を消滅させる程大きく、外敵生物からの逃避行動という面からは、天然環境への適応力が著しく劣